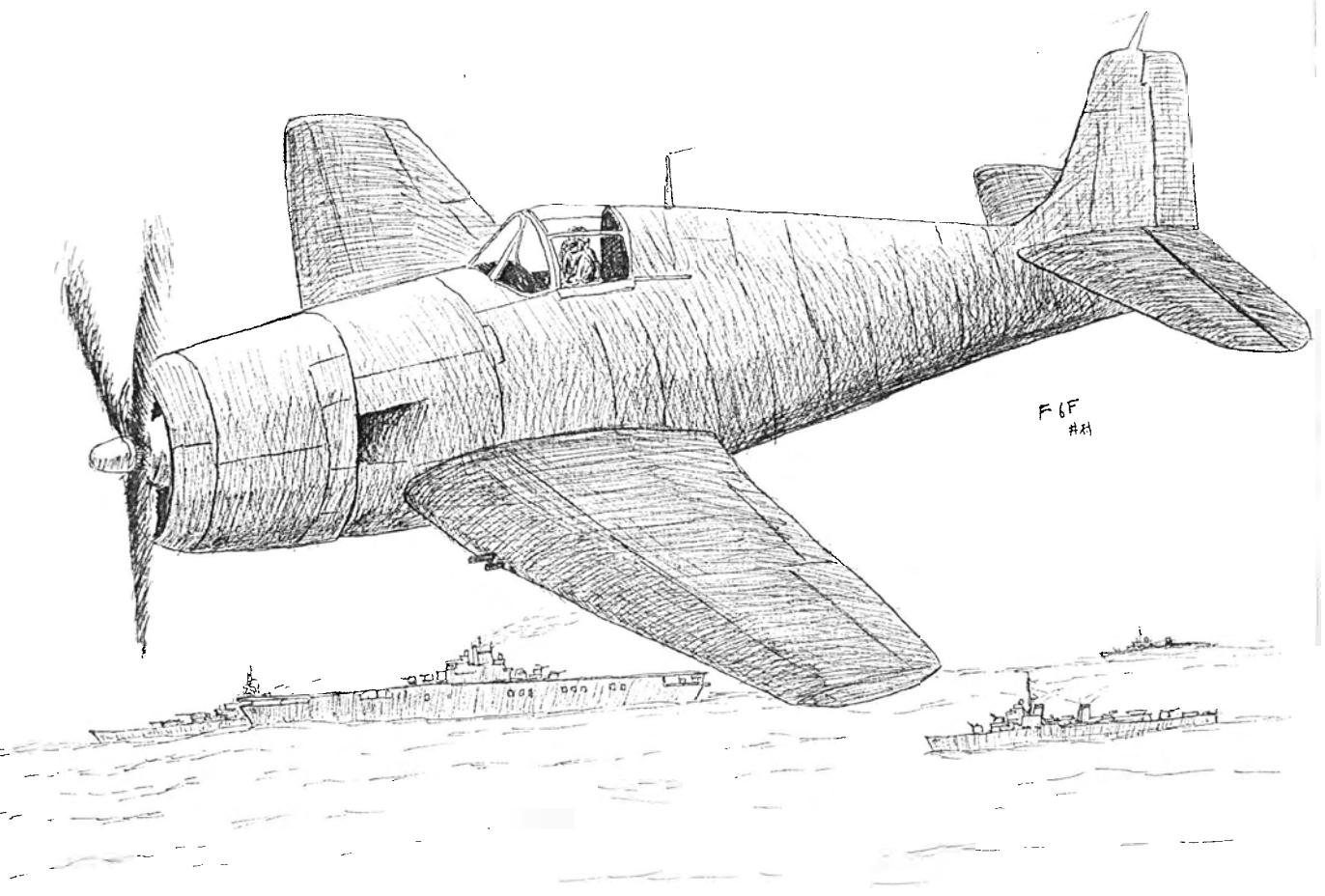


*FÜRSTENTUM
ISABERIA
MARINE
FLIEGER
TRUPPE.*

第14回結果発表！

(ゲーム時間：1944年6月)



☆戦果報告

《基地》

島津少将：よろしい。よくやった。危機一髪のところでイエールの連中を食い止めることができた。特に、戦闘開始後三日目に出でてきた、空挺部隊らしき輸送機の大群をほぼ全滅させたのが効いたのだろう、あとは攻撃らしい攻撃も無くなつた。加えて、制空権が一応戻ってから出動した重爆（連山）部隊の絨毯爆撃のお陰で、パナイ島にいた部隊は撤退を開始した。後方攻撃部隊の方（空母「アイゼンマオア」」「シュツルム」とその護衛以外は戦艦も含めすべて残留）もようやく効果を現わし始めたようだ。——ただし喜んではばかりはいられないのも事実で、まず北方が中国大陸からと思われるB-29の空襲を受けた。南方もミンダナオ島が完全に陥落した。悪いことに、その辺はイザベリアの生命線なのだ。油田地帯でな。他でも採れんことはないのだが、かなりやりにくくなるぞ。

《空母》

松平大佐：……信じられん。惨敗だ。誉れ高き帝国海軍航空隊の戦力が、あれほどまでに低下していたとは。……やはり山本長官の亡くなつたあとが大きすぎる。

「空母2隻、駆逐艦10隻」の目標は、一応達成できた。ただしどれも大破止まりだ。「バンカーヒル」「キャボット」がそれだが、アメリカのことだ、すぐに直してまた持ち出してくれるだろう。味方の損害は主力艦だけでも空母「大鳳」「翔鶴」「飛鷹」「シュツルム」撃沈、「瑞鶴」「千代田」「隼鷹」「セレネ」が被弾だ。痛い。痛すぎる……。

作戦参加者の状態 (SD:撃墜機数 BS:爆破目標数 SP:評価ポイント OP:作戦参加回数)

プレイヤー	Sqn.	乗機	愛称	キャラクター名	SD	B	S	SP	O	P	階級	状態	機体	
岬当麻	3 1	1 2 3	Big H	ハンス	0	2	1	3	3	少尉	生還	無傷		
	3 1	1 2 3	バイアリーターカ	レーマン	0	2	1	0	2	少尉	生還	無傷		
	F 1	零式戦	シャーマンジック	ディードリット	2	0	1	5	6	少尉	軽傷	大破		
	F 1	零式戦	Z Z ガンダム	ルー・ルカ	3	0	2	1	7	少尉	重傷	撃墜		
	V B	九九爆	爆裂商人魂	越前屋 幸太夫	0	2	8		2	准尉	重傷	撃墜		
				越後屋 新佐エ門						中尉	戦死			
鈴木敬純	1 1	P 4 0	伝国の玉璽	袁術 公路	3	0	6		3	准尉	生還	中破		
	F 2	零式戦	—	坂井 二郎	1	1	0	3	0	1	3	中尉	軽傷	
	F 2	零式戦	一足定考取大学！	宮下 枯竹軒	3	0	5		2	准尉	重傷	撃墜		
	V B	九九爆	—	伴 太一	0	2	6		2	准尉	重傷	大破		
吉楽征二	1 1	零式戦	疾風迅雷	東雲 英治	1	0	1	1	4	少尉	軽傷	中破		
	1 1	P 4 0	—	ヒルド・ウェルナー	1	0	1	2	5	少尉	生還	少破		
	1 1	B 9 F	グナイゼナウ	シャルンホルスト						中尉	戦死			
	3 1	九九爆	兄の仇！	沖田 深雪	他1名	0	1	8	2	准尉	生還	無傷		
	F 2	零式戦	—	天霧 太一						中尉	戦死			
	F 2	零式戦	—	白雪 裕介						中尉	戦死			
	F 2	零式戦	—	響 一郎						中尉	戦死			
	F 2	零式戦	七生報国	沖田 悟	2	0	6		3	准尉	重傷	喪失		
	F 2	零式戦	電光石火	吹雪 勤						中尉	戦死			
藏田昌弘	F 1	零式戦	—	相田 那智	0	0	1		1	准尉	生還	喪失		
	F 1	零式戦	—	井沢 望						中尉	戦死			
	F 1	零式戦	—	ディロス・コーン						中尉	戦死			
	F 1	零式戦	—	ホセ・ギリアム	2	0	3		1	准尉	重傷	撃墜		
	F 1	零式戦	—	ロバート・デ・ヴィアス	1	0	2		1	准尉	軽傷	大破		
井村和正	3 1	1 9 0	クバニのライオン	クルピングスキー	0	1	9		3	准尉	軽傷	少破		
	3 2	彗星	炎の爆撃屋	赤根 武士	他1名	0	2	4	8	7	大尉	生還	無傷	
	F 1	烈風	見敵必殺号	メルダース	2	0	3	4	7	中尉	軽傷	喪失		
篠原崇	2 2	零式戦	僕は生きていた！	ベルフィーピー	1	0	4		2	准尉	軽傷	中破		
	2 2	零式戦	White Diamond	シーラ・エル・クリスティナ						中尉	戦死			

	2 2	1 9 0	きゅべれい♡	エルピー・ブル	2	0	1	2	4	少尉	軽傷	中破	
	2 2	1 9 0	疾風怒濤	ブルムファスト	0	0	2	2	2	准尉	重傷	撃墜	
	2 2	1 9 0	翠玉女伯爵	レジーナ=ライス	1	0	5	2	2	准尉	軽傷	大破	
	2 2	1 9 0	ティンカーベル☆	フィオナ=マクロウド						中尉	戦死		
	2 2	1 9 0	「フューチャー ワールド」	遙華 美雷	0	0	1	1	1	准尉	軽傷	撃墜	
	2 2	3 3 5	Blau Blitz	エル=プライス	5	0	3	3	1	中尉	生還	無傷	
	3 1	1 2 3	カトンボ	北海 熊五郎	0	3	1	4	2	少尉	生還	無傷	
	3 1	1 2 3	「ハロ」	フラウ=ボウ	0	3	1	6	5	少尉	生還	無傷	
	3 1	1 2 3	炎の剣	神 亜由美	0	3	8	2	2	准尉	生還	無傷	
	3 1	1 2 3	Blau Blitz	神 千尋	0	3	2	3	4	少尉	生還	無傷	
	療養	零式戦	—	神 弥生						准尉	回復	少破	
菅原忠幸	2 3	零式戦	黒き死神	サモン	1	0	2	1	1	准尉	軽傷	中破	
	2 3	P 4 0	赤騎士	ミリス・フローズン						中尉	戦死		
	2 3	P 4 0	人狼	キリーケ・シマー	1	0	6	3	3	准尉	軽傷	少破	
	2 3	P 5 1	昇竜	リュウ・シキフネ	5	0	6	0	1	4	大尉	生還	無傷
	3 1	1 9 0	ローレライ	クラリベル・チュリアス	0	2	9	3	3	准尉	生還	無傷	
	3 1	彗星	王虎	リー・ツアイリン	0	2	2	4	9	少尉	生還	無傷	
	F 2	零式戦	火男	カン・ケンカ					2	准尉			
	F 2	零式戦	百裂	タミオ・カジワラ						中尉	戦死		
	V B	九九爆	ファルコン	エドモンド・ホンダ						中尉	戦死		
	V B	九九爆	不動	ランディー・カイザート	他1名					中尉	戦死		
	V T	天山	三日月	イチロウタ・コイズミ	他1名	0	2	1	1	3	少尉	重傷	撃墜
				リサ・スナガワ	他2名	0	1	3	1	准尉	重傷	大破	
遠藤誠	1 1	P 4 0	レッド・バロン	ジョン・リヒトホーフェン	1	0	5	3	3	准尉	軽傷	中破	
	1 1	P 4 0	Schwalbe	井上 成美						中尉	戦死		
	1 1	烈風	Blitz	ビッテンフェルト	2	0	2	7	4	中尉	重傷	撃墜	
	3 1	1 2 3	Gans	市川 克志	0	2	5	1	1	准尉	生還	無傷	
	療養			カルリッヒ・ケスラー						准尉	回復		
秋信敏男	1 1	1 9 0	—	J. E. Warnock	2	0	2	9	1	1	中尉	生還	少破
	2 1	1 9 0	—	P. Hunter	0	0	3	3	3	准尉	軽傷	中破	
	F 2	烈風	—	K. Penn	2	0	2	9	4	中尉	重傷	撃墜	
	V B	九九爆	—	斎藤 武	他1名	0	1	4	2	准尉	重傷	大破	
	療養	1 9 0	—	佐々木 吉雄						准尉	回復		
降矢浩己	2 2	零式戦	A-計画任務部隊	アンスバッハ						中尉	戦死		
	2 2	零式戦	A-計画任務部隊	齊藤君						中尉	戦死		
	2 2	P 4 0	A-計画任務部隊	ハーロック	1	0	2	1	1	准尉	生還	少破	
	2 2	雷電	A-計画任務部隊	シェーンコップ	3	0	2	9	4	中尉	生還	無傷	
	3 1	1 2 3	A-計画任務部隊	加藤 亜希子	0	2	5	1	1	准尉	生還	無傷	
	3 1	流星改	A-計画任務部隊	松井 純	0	2	3	8	4	中尉	生還	無傷	
	3 2	天山	A-計画任務部隊	神永 友紀子	0	1	9	3	3	准尉	生還	無傷	
	3 2	2 1 7	A-計画任務部隊	神永 友美子						准尉			
				石見 直子	0	3	5	4	9	大尉	生還	無傷	
				鈴木 悅子				5	4	大尉			
				降矢 浩己				1	1	少尉			
				猪熊 柔				1	1	少尉			
	F 1	零式戦	A-計画任務部隊	彩弧 由貴	0	0	6	3	3	准尉	重傷	撃墜	
	F 1	零式戦	A-計画任務部隊	ビッテンフェルト						中尉	戦死		
	療養			ミッターマイヤー						大尉	回復		

※飛行第103戦隊の「戦果」は、訓練最終試験における判定です。

☆略号解説

1 2 3 … H s 1 2 3 A - 1 零式戦…零式艦上戦闘機五二型乙
九九爆…九九式艦上爆撃機二二型 P 4 0 … P - 4 0 M ウォーホーク
B 9 F … B f 1 0 9 F - 1 1 9 0 … F w 1 9 0 G - 3
彗星…十三試艦上爆撃機「彗星」一二型 烈風…十七試艦上戦闘機「烈風」
3 3 5 … D o 3 3 5 A - 1 プファイル P 5 1 … P - 5 1 C ムスタング
天山…十四試艦上攻撃機「天山」一二型 雷電…十四試局地戦闘機改「雷電」二一形
流星改…十六試艦上攻撃機「流星」一二型 2 1 7 … D o 2 1 7 E - 2

☆状態欄解説

生還…文字通り 軽傷…ちょっととした怪我 重傷…文字通り。治療費以外無料で休めます
戦死…文字通り 事故…事故死。特進の対象にはなりません 回復…ケガ・病気が全快

☆機体欄解説

無傷…文字通り 少破…軽いダメージ 中破…少し痛いダメージ 大破…使用不能
撃墜…文字通り 喪失…母艦／基地攻撃による喪失 墜落…前記以外による喪失

☆次回作戦

《基地》

少将：首都とパナイ島の方は、正規軍に任せておいても大丈夫だ。我々はネグロス島ジボログを拠点にミンダナオ島奪回に向けて動くぞ。「何とかの塔」とかいう兵器を完成させるためには、同島で産出する鉱石が必要不可欠なのだそうだ。しかも、これがイエールの手に渡ると、まったく同じものが連中の手で完成してしまうのらしい。事態が事態だけに、今回は全中隊が同時に行動し、反復攻撃を行なう。急を要する。慌てず素速くやれ。

《空母》

大佐：ミンダナオ島奪回作戦だ。スル海のネグロス島沖から空爆を加える。……実のところ、同島で産出される鉱物が、現在イザベリアで開発中の新兵器の構成に必要不可欠なのだそうだ。同種のものはイエールでも研究が進められているそうで、「ミンダナオを制するものがこの地域を制する」と言っても過言ではない状態になっているそうだ。この間アメリカのニュースが言っていた「殺人光線」がそれだ。計画では、半径4kmの円内のものをすべて跡形もなく破壊する威力すら持ちうるらしい。イエール海軍の空母艦隊との決戦も考えられるので、各自充分注意するよう。以上。

◇次回の編成

《基地》

飛行第101戦隊〈前衛〉

第1中隊 第2中隊 第3中隊

飛行第102戦隊〈直衛〉

第1中隊 第2中隊 第3中隊

飛行第103戦隊〈爆撃〉

第1中隊（急降下） 第2中隊（水平） 第3中隊（水平）

《空母（零式戦、烈風、九九艦爆、SBD、天山、TBF、流星改のみ参加可）》

VF (Det. 1) …艦隊防空 VF (Det. 2) …VB/T護衛

VB…急降下（註） VT…水平

註：九九艦爆、SBDのみ

※空母シナリオは制式機使用キャラのみ選択可能です。※

P C リプレイ

コレヒドール要塞の滑走路は、ギンギンに張り詰めた空気の下にあった。パイロットたちの視線は頻繁に迎撃指令所のスピーカーに向けられたり、機付き整備員たちはすぐに受け持ち機を出撃させられるよう、片時も持ち場を離れない。

その日最初にスクランブルが発令されたのは、朝の9時である。

先陣を切って離陸したのは正規軍の震電隊だった。日本海軍の零戦隊がそれに続く。彼らも日本の防衛線としてのイザベリアの存亡が気にかかるところだろう。なにしろ満州に次ぐ経済の生命線である台湾が、すぐ後ろに控えているのだから。

……傭兵隊の中で一番早かったのは最古参のリュウ・シキフネである。誤射の危険もものともせず、今回もP-51で参加。軍部でも配慮して、国籍表示が標準よりも大きめに記されていた。

すぐに敵と接触した。B-24を中心とする戦爆合計5、60機に上る大編隊。まず最初に突っ込んだのはFw190のエルピー・ブルとブルムファストだった。だが、ブルムファストが近寄りすぎ、返り撃ちを喰つてあえなく撃墜される。ブルはそのB-24を攻撃し、何とか撃墜することに成功した。シャルンホルストは、高度7千mは自分に有利と見てP-38に目を付け踊りかかったが、この読みは狂った。相手はイエール傭兵のベテラン、T.B.マクガイア少佐だったのである。そのノーズアートが噂に聞くアンクルサムであることに気付いた時は既に遅い。後悔する間もなく彼は機と運命を共にする破目となつた。フォン・リヒトホーフェンは深紅のP-40で（一応そういう事にしておこう）SBD群の中に飛び込んだ。爆装機は鈍からうと踏んだのだが、これもそううまくは行かなかつた。もともと軽快なSBD、爆装してもなかなかの回避行動をみせる。結局一機を撃墜したのみで弾切れとなつた。

J.E. Warnockも苦戦したくちである。爆撃機編隊の濃密な防御火器の弾幕を避けながらの攻撃は効率の悪いことおびただしく、結局B-24とSBDを一機ずつ落すに止まつた。

エル＝プライスの善戦はかなり目立つた。自己申請のD-335Aは持ち前の高速性を發揮して敵戦闘機群を翻弄し、たて続けに3機を葬つたのである。全てP-51だったことは特筆に値する。雷電のシェーンコップもよくやつた方である。戦闘機を避け、空戦の常道として一端編隊最後尾まで回りこみ、殿の期待から片付

けて行ったのだ。いとも簡単に頑丈なB-24三機を片付け、さっさと帰還してしまった。

今回はレーダー網が完備していたことが、味方をして先制を取り易くした。しかも基地航空隊の戦力は一級品の粒揃いである。日本軍もいた。その辺に、今回比較的戦い易かった理由があるかもしれない。

制式機解説

Hs 129…Hs 129はドイツ空軍省が提出した「徹底的な防御装甲を装備した小型の双発機」の計画に従って設計されたものである。これは世界で最初の専用対地攻撃機であり、ドイツ空軍内でも最初から対地攻撃機として設計された唯一の機体であった。対抗場としては優れた直協偵察機Fw 189の改修型があったが、最終的にはこちらの方が採用された。抗堪性の点で本機に軍配が上がったものである。基本武装としては20mm機関砲二門の標準装備が要求されていた。構想提示は1937年春。正式採用は1939年で、翌年秋には先行量産機が何機か製造されている。

本気の外見上の特徴は、重装甲ゆえの視界が恐ろしく悪そうな（そして事実悪かった）操縦席まわりであろう。正面の防弾ガラスにいたっては、屈折率の関係で照準器を外に出さなければならなかつたほどである。

エンジンはフランス（占領下）製ノーム・ローン14M4/5（700HP）を双発で採用。何故そうしたのかは不明である。稼動率がそれほどいいわけでもなく、燃費もいいわけではない。被弾に対する耐性についても「？」である。

最初の戦地は地中海だった。北アフリカでロンメル軍団の支援に当たつたのだ。…だが、結果は散々だった。空輸中に第一陣七機中三機が脱落。残る四機中二機も、到着後すぐに使用不能となってしまった。すぐ数機が増援に出されたものの、数の上での劣性は隠しようもなく、さしたる戦果も上げずに全滅してしまった。しばらくして、この汚名は東部戦線で挽回されることになる。さして強くはないソ連空軍をあざわらうかのように前線を飛びまわり、敵戦車多数を破壊してまわつたのだ。重武装化に拍車がかかるのも必然の展開である。まず最初に、30mmガン・ポッドが主に前線で追加装備された。本ゲームで採用のB-2/R4、もしくはB-3/WAもその一変種である。両機の差違は装備する75mm対戦車砲の発射方法の違いである。これらは全体（生産総数840機）の中では少数であったが、功績の方は他を圧して余りある。他機種では歯が立たない重装甲の車両もいとも簡単に吹き飛ばしていったのだから。つけられた仇名は「THE FLYING CAN OPENER」。単純にして明快な表現であろう。

余文裏丸

☆坂井 二郎 中尉

マリアナ沖海戦における勇戦をたたえ、公室典礼庁より公室旭日龍騎士章（スコア+3）を授与する。今後の一層の精進を期待してやまない。